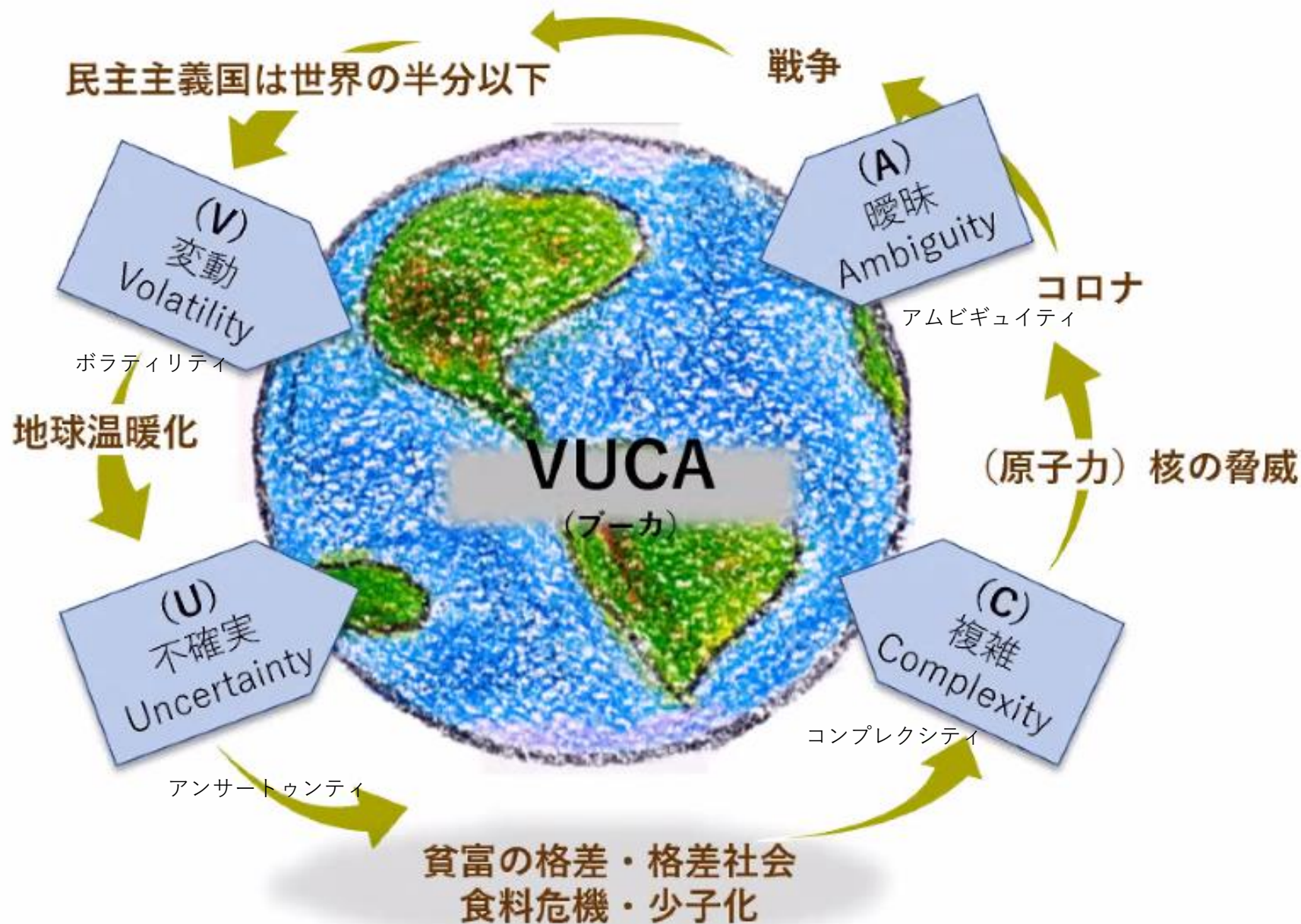


保育園における養護と教育

第1章 いまの保育・教育では未来を描けないことに みなさんは気づいていますか？

2022年の今…
世界は、日本は、
VUCAな世界を
生き抜く力が
求められている



2022年の5月の日本保育学会のNEWなNews！！

いま、先進的な国々教育は

認知能力
(IQ)

インテリジェンス クォーシェント

Intelligence Quotient

知能指数・読み書き計算など
頭の良さ・出来

- OECDの15歳の時点での
学習到達度ランキング

日本は40か国中1位



非認知能力
(EI)

エモーショナル インテリジェンス

Emotional Intelligence

感情知性こそが
幸福や適応性の

- OECD教育総合ランキング

日本…7位

フィンランド…1位

認知能力(IQ)とは

人の知能の基準（観察力・洞察力・記憶力・学習能力・知能指数）を数値化したもの

- ・ IQがわかることで「発達障害などの疾患の診断」や「適切な療育方法の方針決定」のために活用することができる。
- ・ 子どもの能力に最適な教育を受ける機会を提供しやすくなる、能力開花のためのサポートを効果的に実践しやすくなる
- ・ IQは年齢や発達によって変動する。指標のひとつに過ぎない
- ・ IQテストには言語・音楽・創作活動などは含まれない。音楽や芸術の能力は評価できないということ。

子どもの能力を100%評価できるものではない

非認知能力（EI）とは

数値化できない「生きていくために必要な能力」

学力やIQといった数値で測れるものではなく、協調性やコミュニケーション力など数値では測りにくい能力全般を意味します。

日本生涯学習総合研究所による非認知能力の代表的な能力

【非認知能力の例】

協調性
コミュニケーション力
主体性
自己管理能力
自己肯定感
実行力
統率力
創造性
探究心
共感性
道徳心
倫理観
規範意識
公共性



【非認知能力が育まれるあそび】

- ・ ごっこ遊び
- ・ 外遊び
- ・ 水遊び
- ・ 空き箱や洗濯ばさみで工作
- ・ 読み聞かせ
- ・ 歌を通じた遊び
- ・ お手伝い
- ・ 自由あそび

参考：https://point-g.rakuten.co.jp/educare/articles/2020/kids_cognitive/

「育みたい資質・能力」

1.2.3の柱は、生涯にわたる生きる力の基礎を、様々な、人・モノ・場の環境のもとで育み培っていく

EI

3 学びに向かう力・人間性等

心情、意欲、態度が育つ中で、いかにより良い生活を営むか。

「心情」様々なことを感じ取り

「意欲」意欲的粘り強く取り組み

「態度」難しいことにチャレンジする

こうした「主体的」、「対話的」で「深い学び」の充実が確立する好奇心・協調性・自己統制・自己主張・がんばる力など

EI

2 思考力・判断力・表現力等の基礎

遊びや生活の中で、気付いたこと、できるようになったことなどを使いながら、どう考えたり、試したり、工夫したり、表現したりするか。

IQ

1 知識及び技能の基礎

遊びや生活の中で、豊かな体験を通じて、何を感じ、何に気付き、何が分かり、何ができるようになるか。

小学校にジョイント

中学校に

高等学校に

OECD 教育総合ランキング

世界40カ国中、
フィンランド 1位
日本 7位、

OECD 15歳までの学習到達度ランキング

世界40カ国中、日本 1位

知識
いっぱい

発達 の 順序性

かつて発達 は 遺伝的なものに左右されると考えられていました。いくら教育しても生まれつきなので仕方がないという考えが大部分を占めていたのです。

しかし今では、遺伝的なものと同じくらい環境的な影響も大きいと考えられています。

発達は右肩あがりに直線的に進んでいくものでなく、一時的に足踏み状態になったりさか戻りしているように見えることもあります。

その時期、その時期に顕著に現れる行為を十分に保障することが「発達の援助」であり、その後の「発達を助長」することになるのです。

発達は個々によって差はありますが、必ず決まった順序で進んでいきます。生まれた赤ちゃんははいはいの時期を経ずに歩くことはできないのです。

発達の長期サイクル

抽象 (10~20才)

(Abstractions)

やらなくても分かる、考え付く、想像できる

具体的・表現 (2~7才) (Representations)

自分でやってみて気づく・分かる・考える・探索する・想像することが楽しい

動作・行動・体験 (3~13ヶ月)

(Actions)

自分でやる動作が楽しい

(持つ、振る、手放す、置く、入れる、出す、動かす、押す、引っ張る、転がす、音を出す、歩く、昇る、下りる、投げる)

反射 (~11週)

(Reflexes)

2. 遊びや学びの「階層」とそれぞれでの「手助け」

1

遊び・学びの階層と手助けのレベル

Intervention = 介在する、間に入る



子どもの
主体性
は？

その時、保育者は何を
する？
(保育者の主体性)

その結果、
子どもに何を
与えるか？

不安
がる、
困って
いる
子ども

小さい

そばに寄り添う。情緒的な支援。
居心地のよさ。安心感。
習慣と規則。

自信
主体性

養護的活動 (Relational component)

大きい

感覚を使った活動や遊びを準備する。
そばにいたり、離れたたり。
さまざまな教育的技術。
子どもの持つ能力を最大限活用する。
足場の活用。

活発に学
ぶ活動
主体的に
学ぶ活動

教育的活動 (Educational component)

遊びに取り
組む子ども

教育の前に養護

この研究(動的システム理論)は、ある一定の機能的レベルで思考し行動できるまで、養護的内容を現実のものにしなければならぬことを教えています。これが現実化されないと、いずれレベルは低下してしまいます。けれども一旦養護的内容が整えば、教育的内容を使うことによってレベルはさらに高められます。専門家による支援があれば、それは最高レベルになります。逆に、養護的内容が整っていないければ、子どもは普通のレベル以上に到達することはありません。

養護的な条件は、教育的な面においても満たされなければなりません。言い換えると、十分な寄り添い(安心感)がなければ、探索(距離をおくこと)はできません。保育者は、教育に重きをおけるほど養護の条件が十分に満たされたどうか、絶えずチェックしなければなりません。